阿弥陀堂修復情報

2022. 5. 1

宮殿修復 Vol.3

・各部材の修理 【2021年2月～2022年1月 実施】

宮殿の部材は調査を基に図面を作製し、修復を行いました。

屋根の漆塗に加え、柱・向板・天井・組物・礼盤は金箔を押し直し、木部の損傷した部材や瓔珞※1など欠失部材があるものは補修を行いました。錺金具はすべて洗浄・補修し、施されていた工法に合わせて水銀鍍金※2と漆箔で修復を行いました。

※1　瓔　珞　：珠玉と花形の金具を編み合わせた飾りのことです。

※2 水銀鍍金：紀元前からある方法で、鍍金させるものに水銀と金を載せ、水銀を蒸発させて金を定着させる方法です。また作業の際は環境への対策で特別な設備下での作業を行います。

▲ 屋根修復の様子

▲ 升組修復の様子

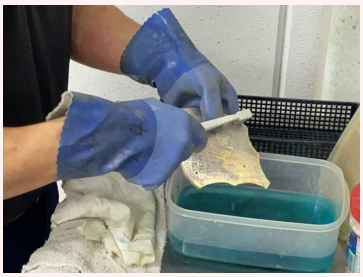
▲ 柱修復の様子

◀修復を終えた瓔珞

宮殿錺金具　修復工程

本修復では、金具の表面に水銀を塗って金箔を押し、加熱して水銀を蒸発させる水銀鍍金という方法で行いました。
水銀鍍金は日本では古墳時代には行われていたメッキの手法です。水銀を用いた作業のため、環境対策として特別な整備が必要となります。

＼洗　浄／



経年で汚れた錺金具を洗います。複数回洗うことで、より汚れを落とすことができ、錆止めの効果を発揮します。

＼箔　押　し／

鍍金面に水銀を摺り広げ、金箔を押し重ねます。金箔を押すと水銀が金箔を吸い込み金アマルガム合金となります。

＼加　熱／

加熱して水銀を飛ばすことで、水銀が蒸発し金具表面に鍍金され、銀色だった錺金具が金色に変化します。

＼艶　出　し／

錺金具の裏面が青くなるまでじっくり炙ったら、錺金具を冷まし、鋼で浮き沈みをとって平らにします。

＼洗　浄／

希硫酸に5分ほど漬けて真鍮ブラシで磨き、重曹で洗い汚れを落とします。

＼仕　上　げ／

錺金具にカリヤスを塗って保護膜をつけます。

※カリヤス：イネ科ススキ属の多年草で，古くは茎や葉から黄色の染料をとるために栽培されました。

＼完　成／

カリヤスを使用することで錺金具の黄色みが増します。
修復を終え、錺金具が綺麗になりました。

(上：修復前 下：修復後)

綺麗になった錺金具は各部材に取り付けられ、阿弥陀堂内で宮組立作業を行ったよ!!

※木鼻は漆箔という方法で修復を行いました。